

令和6年度当麻町地域農業再生協議会水田収益力強化ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

当地域は、上川地方のほぼ中央部に位置し、水田総面積に占める水稲作付けの割合が約71%で、水稲栽培を主体とした中、農業経営の安定を図るべく施設野菜・花きとの複合経営、一部畑作物（大豆、そば、飼料作物）の栽培が行われている。

当地域においては、過去より主食用米を中心に水稲作付けの推進を図り、非主食用米を転作作物の中心作として推奨し、当麻農業の経営安定を図ってきた。今年度の、主食用米の生産の目安は、前年度の作付実績より約45ha増加している。当地域では、主食用米を最大限作付けし、需給環境において国の示す適正在庫量の確保につなげ、水張転作を推進し続けることで、当地域の継続的な水田機能を維持・確保し当麻農業の経営安定に繋げていくことが重要である。

地域の課題としては、農業者の高齢化が進み、農家戸数が減少している傾向であり、更には生産コストが高騰し続けております。将来の農業の担い手を育成・確保すべく、的確に情報を発信することが重要であるとともに、経営体当たりの耕地面積が拡大傾向にあるため、スマート農業や省力化栽培等の導入により、農作業の効率化を図ることが一層求められてくると捉えている。

2 高収益作物の導入や転作作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

当地域においては、水稲と施設園芸品目の複合経営の充実を推奨しており、野菜・花きなどの高収益作物に対しては、産地交付金等を活用することで、作付面積の維持・拡大を図り、水田における同作物の作付面積は昨年約55haであった。

高収益作物については、産地と消費地がより結びつく販売展開を行い、今後想定される畑地化にも併せて対応していくことで経営の安定を図っていく。生産者に対しては、産地交付金や施設栽培に関する補助制度などに関し、適切な情報提供を行い、当再生協議会が推進する基幹作物の安定的な生産・供給を図り、収益力の向上による経営の高水準化を目指す。

3 畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

近年の農家戸数の減少、高齢化に対応し、作物の作付面積の維持・拡大を実現するため、各生産者の事情や「人・農地プラン」から「地域計画」への策定を踏まえながら、各関係機関と連携し今後の担い手への計画的な農地の集積・集約化を推し進める。当地域においては、今後も水稲を中心とした施設園芸品目の複合経営に取り組んでいき、将来にわたって水田が有効利用されるよう取組むとともに、水稲を組み入れない作付体系が定着している圃場を中心に、必要に応じて関係機関とも調整しながら畑地化を推進し、農地の維持管理を行う。

また、ブロックローテーションについては、米のタンパク質含有率の増加や、排水性・作業効率の低下等の現場の課題を把握しつつ、関係機関と連携して必要な対応策を検討しながら、大豆・そば等の連作障害回避等を目的に推進を検討する。

4 作物ごとの取組方針等

(1) 主食用米

競争力の高い主食用米は、他産地との差別化を図り、販売業者等の需要に応えるため、独自の白米販売強化と販路拡大に努める。また、農業者所得の柱となるため、栽培の低コスト化・省力化の推進を強化し、生産基盤の維持・拡大することが重要である。

(2) 非主食用米

ア 飼料用米

需要動向や販売先等の意向調査をし、水張面積を維持していくため、多収品種に限らず、飼料用米を作付け転換の一つのツールとして位置づけ、生産に取り組む。

イ 米粉用米

需要動向や販売先等の意向調査をし、水田機能維持・確保のための水張転作の一つのツールとして需要に応じて生産に取り組む。

ウ 新市場開拓用米

主食用米の国内需要が減少する中、国内外の米の新市場の開拓を図るため、飼料用米、米粉用米を除く新規需要米の生産振興を図る。

エ 加工用米

加工米飯など「米」としての品質が求められる用途の引き合いがあるため、加工用米の需要動向を注視しながら、水張転作の重要品目として取り組み、主食用米の調整手段ではなく、売れる米として生産に取り組む。

(3) 麦、大豆、飼料作物

需要動向や販売先等の意向調査をし、需要に対応でき、且つ収量性の高い優良品種への模索・転換を図った上で生産を図る。また、安定した品質・収量を目指し、且つコスト削減に努めるために、湿害を回避するための排水対策の取り組みと除草対策等の推進を強化し、また増収・品質向上を目的に牧草の種子の追加播種を促し、更には団地化による作業効率の向上により生産コスト削減を図り、作付面積の維持・拡大と、品質及び収量の安定化を図る。

(4) そば、なたね

転作作物として重要な農作物であるため、収量性向上に向けて、湿害を回避するための排水対策の取り組みと除草対策等の推進を強化し、更には団地化による作業効率の向上により生産コスト削減を図り、作付面積の維持・拡大と、品質及び収量の安定化を図る。

(5) 高収益作物（野菜・花き等）

当地域における水田農業にとって重要な産地ブランドの多い作物であり、販売先からの需要も高いため、水稻との複合経営によって、農業所得の確保と産地ブランドとして更なる強化を図るべく地域振興作物として位置づけ奨励を図る。

安全・安心な農産物が求められる中、今後産地として生き延びていくための大きなツールとなることから、消費者・実需者からニーズの高い野菜、花きに対して、作付面積拡大を図る。

(6) 耕畜連携

利用協定に基づき生産された飼料作物の供給を受けた家畜の排せつ物からなるたい肥を散布することで資源循環を図る。

5 作物ごとの作付予定面積等

～

8 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり

※ 農業再生協議会の構成員一覧（会員名簿）を添付してください。

5 作物ごとの作付予定面積等

(単位:ha)

作物等	前年度作付面積等		当年度の 作付予定面積等		令和8年度の 作付目標面積等	
		うち 二毛作		うち 二毛作		うち 二毛作
主食用米	2,147		2,192		2,192	
備蓄米	0		0		0	
飼料用米	20		10		10	
米粉用米	1		0		0	
新市場開拓用米	18		12		13	
WCS用稲	0		0		0	
加工用米	345		316		315	
麦	0		0		0	
大豆	143		144		143	
飼料作物	308		301		234	
・子実用とうもろこし	11		19		19	
そば	156		155		150	
なたね	0		0		0	
地力増進作物	1		0		1	
高収益作物	38		39		39	
・野菜	34		36		36	
・花き・花木	4		3		3	
・果樹	0		0		0	
・その他の高収益作物	0		0		0	
その他	0		0		0	
畑地化	272		85		132	

※ 畑地化の面積については、前年度作付面積等は内数、当年度及び令和8年度作付予定面積等は外数で計上しており、記載方法が異なります。

6 課題解決に向けた取組及び目標

実施 番号	対象作物	推進名	目標	前年度「実績」		目標値
				(5年度)	(6年度)	
1	そば・デントコーン・平家 とうもろこし	品質・収量向上取組 参加者	作付面積（そば） 平均収量（そば） 作付面積（デントコーン） 平均収量（デントコーン） 作付面積（平家とうもろこし） 平均収量（平家とうもろこし）	156 24 18 2,426 11 339	ha kg/10 a ha kg/10 a ha kg/10 a	160 70 14 4,200 18 500
2	大豆	品質・収量向上取組 参加者	作付面積 1等大豆生産率	143 1.2	ha %	160 2.0
3	大豆	品質・収量向上取組 参加者	作付面積 1等大豆生産率	143 1.2	ha %	160 2.0
4	そば・大豆・デントコーン （平家とうもろこし含む）・牧草	排水対策助成	作付面積（そば） 平均収量（そば） 作付面積（大豆） 平均収量（大豆） 作付面積（デントコーン） 平均収量（デントコーン） 作付面積（平家とうもろこし） 平均収量（平家とうもろこし） 作付面積（牧草） 平均収量（牧草）	156 24 143 178 18 2,426 11 339 279 275	ha kg/10 a ha kg/10 a ha kg/10 a ha kg/10 a ha kg/10 a	160 70 160 230 14 4,200 18 500 280 310
5	大豆	品質安定加算	作付面積 1等大豆生産率	143 1.2	ha %	160 2.0
6	そば	品質安定加算	作付面積（そば） 平均収量（そば） 高収そば生産率	156 24 91.6	ha kg/10 a %	160 70 95.0
7	平家とうもろこし	品質安定加算	作付面積 販売金額	11 14,583	ha 円/10 a	18 19,200
8	そば・野豆・花き・苜蓿 ・デントコーン・ 平家とうもろこし	若い手組農作物加算	作付面積（そば） 若い平家（そば） 地域販売金額（そば） 作付面積（野豆・花き） 若い平家（野豆・花き） 地域販売金額（野豆・花き） 作付面積（苜蓿・高幹青） 若い平家（苜蓿・高幹青） 地域販売金額（苜蓿・高幹青） 作付面積（デントコーン・平家とうもろこし） 若い平家（デントコーン・平家とうもろこし） 地域販売金額（デントコーン・平家とうもろこし） 作付面積（平家とうもろこし） 若い平家（平家とうもろこし） 地域販売金額（平家とうもろこし）	156 69.9 11,494 38 51.3 711 34 25.6 140 29 72.2 7,669	ha %	160 70.0 20,000 50 70.0 900 60 40.0 160 32 77.0 7,900
9	野豆・花丹	振興作物助成	作付面積	28	ha	50
10	豆類・苜蓿青	振興作物助成	作付面積 販売金額	34 140	a 千円	60 180
11	地力増進作物	振興作物助成	作付面積を目標とした作付面積 差額金額に等しい作付面積	4 1	ha 円	5 10
12	大豆・そば・牧草・デント コーン（平家とうもろこし 含む）	選地化加算	作付面積（大豆） 選地化率（大豆） 作業時間削減率（大豆選地化） 作付面積（そば） 選地化率（そば） 作業時間削減率（そば選地化） 作付面積（牧草） 選地化率（牧草） 作業時間削減率（牧草選地化） 作付面積（デントコーン） 選地化率（デントコーン） 作業時間削減率（デントコーン選地化） 作付面積（平家とうもろこし） 選地化率（平家とうもろこし） 作業時間削減率（平家とうもろこし選地化）	143 45.9 6.33 156 15.7 8.26 279 64.9 26.55 18 72.2 25.5 11 0	ha % % ha % % ha % % ha % % ha % %	150 60.0 30.0 160 30.0 12.0 280 70 34 14 80.0 34.0 18 25.0
13	大豆（高大豆含む）	条件不利地生産性向上 加算	取組面積 条件不利地での取組率 平均収量	11 27.3 178	ha % kg/10 a	14 64.0 230
14	そば・牧草	条件不利地生産性向上 加算	取組面積（そば） 条件不利地での取組率（そば） 平均収量（そば） 取組面積（牧草） 条件不利地での取組率（牧草） 平均収量（牧草）	47.5 55.83 24 70.3 23.47 275	ha % kg/10 a ha % kg/10 a	90 74 70 100 60 310
15	牧草	飼料作物選地化特別加 算	作付面積 3ha選地化率 作業時間削減率	279 70.6 27.79	ha % %	280 85 35
16	大豆・そば・デントコーン （平家とうもろこし含む）	品質・収量向上技術取 組加算【専収熟肥】	作付面積（そば） 平均収量（そば） 作付面積（大豆） 平均収量（大豆） 作付面積（デントコーン） 平均収量（デントコーン） 作付面積（平家とうもろこし） 平均収量（平家とうもろこし）	156 24 143 178 18 2,426 11 339	ha kg/10 a ha kg/10 a ha kg/10 a ha kg/10 a	160 70 160 230 14 4,200 18 500
17	そば	品質・収量向上技術取 組加算【専収熟肥】	作付面積 平均収量	156 24	a kg/10 a	160 70
18	大豆	品質・収量向上技術取 組加算【専収熟肥】	作付面積 平均収量	143 178	a kg/10 a	160 230
19	デントコーン（平家とうも ろこし含む）	品質・収量向上技術取 組加算【専収熟肥】	作付面積（デントコーン） 平均収量（デントコーン） 作付面積（平家とうもろこし） 平均収量（平家とうもろこし）	18 2,426 11 339	a kg/10 a a kg/10 a	14 4,200 18 500
20	牧草	品質・収量・供給力向 上取組加算	作付面積 平均収量	279 275	a kg/10 a	280 310
21	飼料作物	肥源循環助成（糞肥運 搬）	作付面積 取組率	279 17.7	a %	300 30
22	新市場開拓用米	新市場開拓用米取組成 大助成（追加配分）	取組面積	20	ha	25
23	新市場開拓用米	新市場開拓用米取組成（追加 配分）	取組面積	20	ha	25
24	そば	そば作付助成（追加配 分）	作付面積 平均収量 等量そば生産率 作業時間削減率	156 24 91.6 8.26	ha kg/10 a % %	160 70 99 12

※ 必要に応じて、農場に加入、脱退によって得られるコスト低減効果等についても目標設定してください。
※ 目標期間は3年以内とさせていただきます。

7 産地交付金の活用方法の概要

都道府県名:北海道

協議会名:当麻町地域農業再生協議会

整理 番号	使 途 ※1	作 期 等 ※2	単 価 (円/10a)	対 象 作 物 ※3	取 組 要 件 等 ※4
1	品質・収量向上除草対策加算	1	600	そば・デントコーン(子実とうもろこし含む) (いずれも基幹作物のみ)	除草剤散布1回以上
2	品質・収量向上除草対策加算	1	1,200	大豆(基幹作物のみ)	除草剤散布(土壌処理・茎葉散布 各1回以上)
3	品質・収量向上除草対策加算	1	1,400	大豆(基幹作物のみ)	除草作業(カルチ作業)2回以上
4	排水対策助成	1	2,000	そば・大豆・デントコーン(子実とうもろこし含む)・牧草(いずれも基幹作物のみ)	心土破砕の施工等
5	品質安定加算	1	5,800	大豆(基幹作物のみ)	刈取・乾燥調製委託、かつ地区別統一播種基準に基づき播種作業
6	品質安定加算	1	8,100	そば(基幹作物のみ)	刈取・乾燥調製委託、かつ地区別統一播種基準に基づき播種作業
7	品質安定加算	1	9,200	子実とうもろこし(基幹作物のみ)	刈取・乾燥調製委託、かつ地区別統一播種基準に基づき播種作業
8	担い手振興作物加算	1	8,200	そば・野菜・花き・豆類・馬鈴しょ・デントコーン・子実とうもろこし(品目名については別紙参照) (いずれも基幹作物のみ)	認定農業者・認定新規就農者であること
9	振興作物助成	1	33,900	野菜・花き(品目名は別紙参照) (いずれも基幹作物のみ)	助成対象作物(野菜・花き)の作付け
10	振興作物助成	1	18,000	豆類、馬鈴しょ(品目名は別紙参照) (いずれも基幹作物のみ)	助成対象作物(豆類・馬鈴しょ)の作付け
11	振興作物助成	1	4,500	地力増進作物(品目名は別紙参照(基幹作物のみ)	畑作物の連作障害の回避を目的とした地力増進作物の作付け
12	団地化加算	1	7,600	大豆・そば・牧草(品名については別紙参照)・デントコーン(子実とうもろこし含む) (いずれも基幹作物のみ)	単一作物での連担による5ha以上の団地形成
13	条件不利地生産性向上加算	1	7,600	大豆(黒大豆含む) (いずれも基幹作物のみ)	条件不利地における融雪期の簡易溝切作業
14	条件不利地生産性向上加算	1	7,600	そば・牧草(品目名については別紙参照) (いずれも基幹作物のみ)	そば:無人ヘリによる追肥等、牧草:1番草の掃除刈り等
15	飼料作物団地化特別加算	1	9,600	牧草(品目名については別紙参照) (いずれも基幹作物のみ)	単一作物での連担による概ね3ha以上の団地形成
16	品質・収量向上技術取組加算【土壌改良】	1	1,500	大豆・そば・デントコーン(子実とうもろこし含む) (いずれも基幹作物のみ)	土壌改良成分の含まれた融雪剤の散布等
17	品質・収量向上技術取組加算【増収施肥】	1	800	そば(基幹作物のみ)	窒素成分量3kg(10a当たり)以上の施肥
18	品質・収量向上技術取組加算【増収施肥】	1	500	大豆(基幹作物のみ)	緩効性肥料による施肥
19	品質・収量向上技術取組加算【増収施肥】	1	500	デントコーン(子実とうもろこし含む) (いずれも基幹作物のみ)	窒素成分量4kg(10a当たり)以上の施肥
20	品質・収量・供給力向上取組加算(草地簡易更新)	1	1,000	牧草(品目名については別紙参照) (いずれも基幹作物のみ)	適正播種量(2.0kg～2.5kg)で播種の実施等
21	資源循環助成(耕畜連携)	3	11,500	飼料作物(品目名については別紙参照)	利用供給協定を結び堆肥を散布
22	新市場開拓米取組拡大助成(追加)	1	20,000	新市場開拓用米	新市場開拓用米の作付け
23	複数年契約助成(追加)	1	10,000	新市場開拓用米	新市場開拓用米の複数年契約締結 ※コメ新市場開拓等促進事業で採択された者が対象
24	そば作付け助成(追加)	1	20,000	そば	除草剤散布1回以上

※1 二毛作及び耕畜連携を対象とする使途は、他の設定と分けて記入し、二毛作の場合は使途の名称に「〇〇〇(二毛作)」、耕畜連携の場合は使途の名称に「〇〇〇(耕畜連携)」と記入してください。

ただし、二毛作及び耕畜連携の支援の範囲は任意に設定することができるものとします。

なお、耕畜連携で二毛作も対象とする場合は、他の設定と分けて記入し、使途の名称に「〇〇〇(耕畜連携・二毛作)」と記入してください。

※2 「作期等」は、基幹作を対象とする使途は「1」、二毛作を対象とする使途は「2」、耕畜連携で基幹作を対象とする使途は「3」、耕畜連携で二毛作を対象とする使途は「4」と記入してください。

※3 産地交付金の活用方法の明細(個票)の対象作物を記載して下さい。対象作物が複数ある場合には別紙を付すことも可能です。

※4 産地交付金の活用方法の明細(個票)の具体的な要件のうち取組要件等を記載してください。取組要件が複数ある場合には、代表的な取組のみの記載でも構いません。

※5 支援年限を記入してください。

産地交付金の活用方法の明細に定める作物一覧

作物	品種
1 豆類	小豆
2 (大豆・黒大豆を除く)	菜豆(いんげん)
3	えんどう
4 ばれいしょ	(生食用)
5 その他作物	あさつき
6	明日葉
7	味美菜
8	アスパラガス(グリーン)
9	アスパラガス(ホワイト)
10	アスパラガス(紫)
11	アーティチョーク
12	いちご
13	いんげん
14	うど
15	えだまめ
16	オクラ
17	かぶ
18	かぼちゃ
19	カリフラワー
20	きのこ
21	キャベツ(キャベツ類全般)
22	キクイモ
23	きゅうり
24	ぎょうじゃにんにく
25	グリーンリーフ
26	クレソン
27	ケール
28	ゴーヤ
29	ごぼう
30	こまつな
31	ささげ
32	さつまいも
33	さといも
34	サニーレタス
35	さやいんげん
36	さやえんどう
37	サラダ菜
38	サンチュ
39	ししとう
40	しそ
41	しゅんぎく
42	食用キク
43	食用ゆり(ゆりね)
44	シロウリ
45	しろ菜
46	スイートコーン
47	すいか
48	ズッキーニ
49	スナップエンドウ
50	スティックセニョール(茎ブロッコリー)
51	セルリー
52	セルパチコ
53	そらまめ
54	タアサイ
55	だいこん
56	だいこんな
57	たいな
58	たまねぎ
59	チコリ
60	ちんげんさい
61	テンダーボール(花ニラ)
62	とうがらし
63	冬瓜
64	トマト
65	ながいも
66	なす
67	ナスタチウム(キンレンカ)
68	なんばん
69	にがうり
70	にら
71	にんじん
72	にんにく
73	にんにくの芽
74	ねぎ(ねぎ類全般)
75	野沢菜
76	はくさい
77	パセリ
78	パプリカ
79	ハーブ類
80	ピーマン

作物	野菜	品種
81 その他作物	(海外品種も含む)	ピーツ
82		ブロッコリー
83		ベビーリーフ
84		ほおずき
85		ほうれんそう
86		マカ
87		まくわうり(カンロ)
88		マーシュ
89		実えんどう(グリーンピース)
90		みずな
91		みつば
92		ミニかぼちゃ
93		ミニトマト
94		みぶ菜
95		メロン
96		モロヘイヤ
97		ヤーコン
98		山わさび
99		ゆりね
100		らっきょう
101		ラディッシュ
102		リーフレタス
103		ルッコラ
104		ルパープ
105		レタス
106		わさび
107	花き	アイリス
108		アゲラタム
109		アザミ
110		アスクレピアス
111		アスター
112		アスチルベ
113		アストランチャ
114		アスパラガス(観賞用)
115		アトランティアマヨール
116		アネモネ
117		アマランサス
118		アリウム
119		アリストロメリア
120		アルケミラ
121		アルプカ
122		イギシア
123		イタリアンスカス
124		イワチドリ
125		インパチェンス
126		ウイキョウ
127		ウィンターグラジオラス
128		うばゆり(ユリ科)
129		エキノプシス
130		エボタ
131		エリンジウム
132		エレムルス
133		エンレイソウ
134		オーニソガラム
135		オダマキ
136		オレガノ
137		カーネーション
138		ガーベラ
139		カキツバタ
140		カスミソウ
141		かぼちゃ(観賞用)
142		ガマ(ガマ科)
143		カラー
144		カンゾウ
145		カンパニュラ
146		ギガンジウム
147		キキョウ
148		キク
149		菊アスター(キク科)
150		キバナシャクナゲ
151		切葉類
152		キャラウェイ
153		キャンディタフト
154		金風車(キク科)
155		きんぎょそう
156		クジャクソウ
157		グラジオラス
158		グラスペディア
159		クリスマスローズ
160		クレマチス